

市長が考える市政の方向性を支えます

12月19日の議会で、桜井市長から「所信表明」という形で市民に今後の柏崎市政の方向性が示されました。それに記されている「主たる施策の方向性」の中で「人材の育成」が第一にきていることからも、桜井市長がいかに「人づくり」を重視しているのかが分かります。

(内容は一部抜粋です)

○「人材の育成」→私はここに特に注力いたします。小中学校の普通教室へのエアコン設置など教育環境の整備を前倒しで行います。指導補助員の確保に努め、心身ともにハードワークを重ねる教員の負担を少しでも軽減し、ゆとりある指導環境を創出してまいります。工業の分野、商業、農業、漁業、林業の分野で、福祉、観光の分野においても若い人材の挑戦を支援いたします。人を育てることは豊かさを生み出し、安心を創出することもあると考え、積極的に取り組んでまいります。

○「人口減少」→U・Iターンに向け、個別に、直接、呼びかけ、電話をかけ、泥臭く働きかけます。地元企業と連携し、柏崎の企業への就職にインセンティブを与えるべく、施策をそろえてまいります。二世帯住宅を促進し、若い世代の定住、子育て支援、高齢者の安心感醸成に寄与します。

○「財政」→市政を支えるのは、財政であります。経済であります。歳出においては身の丈を意識し、しかし、時に集中的な投資も必要だと考えております。基本は「お金をかけずにアイディアを活かす」「お金をかけて一点突破、全面展開」であります。ふるさと納税の使途は、人材の育成を重点的なものといたします。

○「原子力発電の存在、今後」→これからは科学技術的な要因のみならず、社会的な要因を含んで廃炉の時代がやってきます。柏崎の主要産業の一つは、「安心創出産業」であると答えることができるよう基盤をつくってまいります。首都圏につながる送電線を今後も有効に使い、原発にこだわらない新たな電力の創出、移出基地として機能させる方策を東京電力とともに見出してまいります。6・7号機の再稼働に関しては、国の規制委員会の審査を経て、私自身が国及び東京電力に対し、条件を付し、それに対する答えと一定の方向性が見いだされたとき、再稼働を認めるつもりであります。もちろん、全くその対応に誠意が得られないのであれば、再稼働議論は先に進みません。その条件は、それほど低いハードルではありません。もとより嫌がらせのような壁をつくるつもりもありません。

市長の「公約」は市民にとって頼もしいと感じることだと思います。その願いが達成できるように支えていきたいと思います。市長も議員も目的・目指すところは、「柏崎市の発展」であり「安全で安心した暮らし」です。自分や限られた集団のみの利益の追及に偏らない、ということです。

また、市長・当局側の提案はすべて適切で、正しく、それを後押しすればいい、というものではありません。議会としては、市長・当局側から提案されたものをしっかりとチェックするだけでなく、提案される前に当局側と意見交換を行い、建設的な議論を通して、施策や事業をより実効性のあるものにしていくようにしたいと考えます。当然のことながら、なれ合いのような関係にはなりません。

「重野まさき後援会」への入会を募集しています。ホームページからも入会できます。

後援会事務所 0257-24-1671

ホームページ

<http://www.m-shigeno.net>

Eメール

info@m-shigeno.net

★重野正毅はフェイスブックもしています★



市長と重野議員は中学生時代に陸上部で一緒に汗を流しました。その後、子どもは同級生になり、学校のPTA活動も一緒に取り組みました。

人を、まちを、未来を、つなげる

重野まさき通信

第8号 平成29年2月7日発行



発行：重野まさき後援会
事務所：〒945-0072 柏崎市北園町19-47
連絡先：0257-24-1671
発行責任者：入澤 稔 [後援会内部討議資料]

2017年！今年も市民ファーストの気持ちで全力で取り組みます。よろしくお願ひいたします。

重野まさき議員を囲む会を実施しました（12月3日）

日頃からお世話になっている皆様からお集まりいただきワークプラザ柏崎で行いました。

当日は入澤稔後援会長のあいさつから始まり、新退教の小栗俊郎さんと桜木町内会長の小嶋勇司さん、重野議員の小学校時の担任だった西本光子さん、新退教の与口義雄さんから激励のお話がありました。また、陸上協会の村山忠利さんと渡辺亘さんから重野議員へ今後期待することを話していただきました。

また、シルバー人材センターの小林和徳理事長と市長就任前の桜井雅浩さんからは重野議員の今後の議員活動への応援をしていただきました。

重野議員からは市議会の報告だけでなく、日頃議員活動を行っている中で市民の皆様から要望されたことで実現したことや最近関わった選挙活動の話を聞くことができました。

現職の先生方をはじめとする教育関係者のみならず、町内会や陸上協会の皆様、あるいは議員の同級生などもお集まりいただき、盛会でした。重野議員のこれからの活動の支援を強めるとともに、後援会員同士の絆を深め、支援の輪をより広めていくことを約束して終わりました。

毎年開催していくので、次回の開催の時には、また大勢の皆様からの参加をお待ちしております。

議員全員が「原発サミット」に参加（11月10日・11日）

正式名称「第10回全国原子力発電所立地議会サミット」が東京の品川プリンスホテルで開催され、柏崎市議会議員全員が参加しました。このサミットは、20年前に柏崎市議会が全国に呼び掛けて始まったものです。今回は全国24の市町村議会から400人を超す議員が集まりました。



閉会のあいさつの中でこんな話がありました。「原発は昔からトイレナキマンションと言われてきた。建設や稼働についてはイケイケどんどんで、話も盛り上がっていくが、いざ、廃炉や廃棄物処理の話になるとみんな一堂に口をつぐんでしまう」。柏崎市でも原発の稼働問題と併せて、使用済核燃料の扱いについても考えていかなければなりません。

議会は採択や議決がある一方で、住民の意見をしっかりと聞き、少数意見も吸い上げて議論していくべきところだと思います。これは原発に関係することでも同じです。柏崎でも議論は続いていきます。

12月定例会議終了 重野議員の一般質問

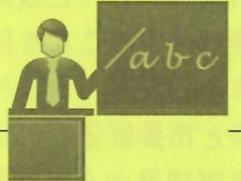
1 市長が受け止める柏崎市の教育の実態

本会議での市長答弁

(質問要旨) 市長の目標や目指す方向は、その実態の十分な把握があってこそ、適切で具体的な方策が検討されるものだと思う。①現在の柏崎市の子どもたちの実態、②現在の柏崎市の学校教育現場の実態をどうとらえているのか。



(市長答弁抜粋) ①一言で言うと、柏崎の子どもたちは子どもたち自身、保護者、地域、学校の先生方のおかげで非常にいい子どもに育っていると思っている。小中学生とも全体的に規範意識や他人と協力することへの意識が高い一方で、将来の夢や目標をもっているということに対しては国・県を下回っている。
②先生方が忙しいということは子どもたちも忙しくなっていると考える。教職員の定数は法令的に決まっているので、市独自に指導補助員や介助員を増員してきたが、人的配置はいまだ十分ではないと考えている。エアコンの設置は夏の時期の教育環境を考え、前倒しで設置を進めていく。指導補助員を増やすことやエアコンを設置することだけが教育環境の整備ではないことは重々承知している。柏崎の人材の育成のベースは学校教育であると思っている。



2 全国学力・学習状況調査から見えてくるもの

(質問要旨) ①柏崎市の「学力」と「学習状況」についての実態。②今後の柏崎市として学力の向上及び望ましい学習状況の定着のために取り組む方向。③教職員の研修は必要不可欠です。授業づくりを専門に扱う指導主事の増員配置を検討してほしい。



(教育部長答弁抜粋) ①学力は、小学校においては全ての教科領域で全国平均を上回った。中学校では国・県と同程度であった。学習状況は、周りと積極的に関わり合う授業態度など望ましい傾向がある一方、家庭学習の内容の充実について改善を図る必要を感じる。
②アクティブラーニングの視点から授業改善に努めていることが伺えるが、生きる力や人間性を育んでいくためには一斉授業だけでは不十分で、自ら課題に取り組み、周りと協働できる授業を実現していく必要がある。
③指導主事の人員の増員は、県全体の教職員の配置のこともあり、教職員の研修や子どもたちのことを考え、今後の課題としていく。現状の研修を充実させていき、必要によって増員を考えていく。

3 小中学校兼務の指導補助員により中1ギャップ解消



(質問要旨) 中1ギャップ解消の一助として、現在の指導補助員や介助員以外に、複数年の契約ができる方に、小中学校を兼務できる指導補助員を配置してほしい。そういうことは可能のことか。また、採用に向けて取り組む意思があるのか。

(教育長答弁抜粋) 提案の指導補助員の兼務は今年度試験的に校舎が隣接している小中学校に1名配置している。中1ギャップ解消にとどまらず長期的な子どもへの視点という観点でその効果を見極めながら必要に応じて配置をしていきたい。現在指導補助員などは市の非常勤職員としての雇用形態の中で単年度契約になっている。複数年での採用は難しい。しかし多くの方が複数年にわたって継続的に採用されているので、これまで通りの採用方法の中で兼務について併せて検討していきたい。

4 不登校児への支援について

(問題意識) 義務教育終了後の生徒が心身その他の理由で高校在籍中に不登校になったり、中退した場合、その生徒自身あるいは保護者が生活面や就労面で相談できる窓口を周知していく必要を感じる。同様に引きこもりの状態にある人に対しての支援体制も市で整えていく必要も高まっている。



フォンジエ地下1階のワークサポート柏崎

(方向性等) 義務教育終了後の生活支援は、高校側から紹介される機関以外に「元気館」「社会福祉協議会」「柏崎保健所」での面談相談や電話相談、あるいは厚生病院などの医療機関がある。他と交流をすることを求めるのであれば「社会福祉協議会のぶらっと」(会場は総合福祉センター)で交流活動や作業体験ができる。

就労支援は、ハローワーク以外にも、「ワークサポート柏崎の若者職業相談」で就業のための経験や訓練をし、就職につなげていくことができる。このワークサポート

柏崎には、「長岡地域若者サポートステーション」の職員もいるため、地域的にも幅広い支援も可能である。教育長答弁は、「広報やホームページ、パンフレットで関係機関の周知を図り、支援が必要な方々への対応は関係機関との連携をし、相談内容ごとに適切な期間を紹介することで自立へのサポートをしていく」としているので、今後の周知の徹底と支援の拡充を期待する。

5 循環型学校給食のための生ごみ処理機の導入について

(問題意識) 柏崎市の給食の食べ残しなどの残渣はどのように処理されているのか。また、国が推進している食品ロスを子どもたちにも意識づけるために、子どもが自分の目で給食の食べ残しがどのような処理をされているのかを確認することで、食育などの教育活動に生かしていきたい。



<柏崎市での給食等の調理かすや食べ残しの残渣の処理方法 (13施設)>

廃棄物処理業者に依頼しクリーンセンターで焼却処分	7施設
微生物により生ごみを水に分解して下水道に流す	4施設
生ごみ処理機を使用して堆肥化	2施設

(方向性等) 教育長の答弁から、「堆肥化するときに乾燥不足などから悪臭発生や野生動物による被害が出たこともある」とのことである。また、堆肥化して子どもたちの目に触れさせることは、食育や環境教育活動に有効だと考えている。「衛生面や臭気のこと、肥料の活用ルートの整備の課題が多いことから今後研究していくことが必要とし、今まで以上に食べ残しを出さない教育をしていく」という方向で進めていくということなので、食品ロスの意識も学校教育で育んでいくことを期待する。



* 2月定例会議の予定 (来年度の予算の審議があります)

2月20日(月)～3月23日(木)

3月8日(水)・9日(木)が一般質問